



2025年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年11月14日

上場会社名 株式会社ペッパーフードサービス 上場取引所 東
コード番号 3053 URL <http://www.pepper-fs.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 一瀬 健作
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 開発本部長 兼 総務本部長 (氏名) 猿山 博人 TEL 03(3829)3210
配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年12月期第3四半期の業績 (2025年1月1日～2025年9月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期第3四半期	10,739	2.9	△91	—	△90	—	△186	—
2024年12月期第3四半期	10,439	△4.7	13	—	41	—	△40	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期第3四半期	△3.09	—
2024年12月期第3四半期	△0.69	—

(注) 「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」については潜在株式は存在しているものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年12月期第3四半期	5,711	3,332	58.3
2024年12月期	5,642	3,152	55.8

(参考) 自己資本 2025年12月期第3四半期 3,328百万円 2024年12月期 3,147百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年12月期	—	0.00	—	—	—
2025年12月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年12月期の業績予想 (2025年1月1日～2025年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,618	4.5	11	△85.1	21	△79.8	△90	—	△1.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年12月期 3 Q	61,424,000株	2024年12月期	59,663,800株
② 期末自己株式数	2025年12月期 3 Q	220株	2024年12月期	220株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年12月期 3 Q	60,536,936株	2024年12月期 3 Q	58,085,463株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(企業結合等関係)	7
(会計方針の変更に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費は底堅く推移し、企業収益の改善に伴う設備投資の増加の影響もあり、緩やかな回復基調を維持いたしました。その一方で、世界経済としては、一部地域で堅調さが継続したものの、主要国間の金融政策の違いや、通商摩擦に起因する不確実性から成長の鈍化傾向が示唆されました。外食産業においては、全体的には回復基調にあるものの、原材料価格の高騰や人材確保に係る費用の増加など、依然として厳しい経営環境が続いております。

こうした状況のもと、2025年は『漸進』を当社のテーマとして、お客様へ安心・安全な商品の提供を最優先課題としながら、既存店舗のDX化の推進、アジアを中心とした海外展開、新規事業の発展に注力しました。

これらの結果、当第3四半期累計期間における売上高は10,739百万円(前年同期比2.9%増)、営業損失は91百万円(前年同期は13百万円の営業利益)、経常損失は90百万円(前年同期は41百万円の経常利益)、四半期純損失は186百万円(前年同期は40百万円の四半期純損失)となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりです。

① いきなり！ステーキ事業

いきなり！ステーキ事業につきましては、引き続き調理技術、店舗サービス力の強化を行いながら、期間限定商品の販売によるお客様数の増加や、コラボ企画を開催し、新たなお客様の獲得に尽力いたしました。

国内においては、人気TVアニメ『Re:ゼロから始める異世界生活』とのコラボレーション企画を開催し、第一弾として7月2日より期間限定で大阪・関西万博内の『アニメ×フードフェスTHE縁日-ENNICHI-』へ出展し、コラボメニューを販売しました。また、第二弾として7月19日より、いきなり！ステーキ全店でオリジナルノベルティグッズの配布と、一部店舗にて店内装飾を行い、コラボメニュー及びグッズを販売しました。

商品キャンペーンにつきましては、7月25日より希少部位のイチボステーキを期間限定で販売、9月25日より『CREEKSTONE』社の高品質なブラックアンガス牛を使用した超希少部位である「アンガスリブレットステーキ」を販売しました。

いきなり！ステーキ公式アプリでは、新機能として肉マナークーポンが当たる「いきなり！ダーツ」をリリースしました。

海外においては、7月22日にフィリピン4号店となる「Ikinari Steak Alliancesland Tower(アライアンスランドタワー)店」がオープンいたしました。既存店の運営につきましては、好調に推移しております。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は10,253百万円(前年同期比1.4%増)、セグメント利益は1,058百万円(前年同期比16.1%増)となりました。

② レストラン事業

レストラン事業につきましては、「炭焼きステーキくに」にて、29の日(肉の日)の開催をはじめ、7月11日より「大麦牛イチボステーキフェア」を実施しました。「こだわりとんかつ かつき亭」では、7月4日より「夏御膳」を期間限定で販売、9月1日より「牛ひれかつ御膳」をメニューに加えました。すき焼き業態の「すきはな」では、黒毛和牛と和牛の両方が堪能できる「食べ比べすきやきセット」の販売を開始しました。海鮮居酒屋業態の「かいり」においては、各店舗の特徴を活かした夏の限定メニューを販売し、季節に応じた商品戦略を実施しました。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は439百万円(前年同期比54.5%増)、セグメント損失は60百万円(前年同期は13百万円のセグメント利益)となりました。

③ 商品販売事業

商品販売事業につきましては、「冷凍ワイルドステーキ」、「冷凍ガーリックライス」、「冷凍ハンバーグ」の他、家庭でもお店の味が楽しめるよう、オリジナルスパイスやソースを各大手モールにて出店販売いたしました。また、デリバリー専門ブランドとして、株式会社SBIC社とライセンス契約による「いきなり！やきにく」を展開しております。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は38百万円(前年同期比10.8%減)、セグメント利益は0百万円(前年同期は4百万円のセグメント損失)となりました。

④ その他事業

その他事業につきましては、店舗FC開発や店舗サポート及び購買に関する間接収益部門の事業となっております。店舗サポート部門にて、株式会社ディーシーティーエンタテインメントが運営する「sumile TOKYO(スマイレトウキョー)」の運営支援業務を行っております。FC開発部門としましては、8月に新規加盟(1社)がございました。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は7百万円(前年同期は0百万円)、セグメント損失は76百万円(前年同期は82百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて69百万円増加し5,711百万円となりました。これは主に、現金及び預金が123百万円減少したこと並びに事業譲受に伴いのれんが183百万円増加したことによるものです。

負債は、前事業年度末に比べて109百万円減少し2,379百万円となりました。これは主に買掛金が89百万円減少したこと、未払金が50百万円減少したこと、未払法人税等が49百万円増加したこと及び未払消費税等(流動負債・その他)が83百万円減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べて179百万円増加し3,332百万円となりました。これは主に、利益剰余金が186百万円減少したこと及び第14回新株予約権の行使に伴い資本金、資本剰余金がそれぞれ176百万円増加したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2025年8月14日の「2025年12月期 中間期業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想値の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,179	2,056
売掛金	607	545
商品	154	140
貯蔵品	29	32
その他	552	469
貸倒引当金	△30	△30
流動資産合計	3,493	3,213
固定資産		
有形固定資産		
建物	567	559
その他	132	228
有形固定資産合計	700	787
無形固定資産		
のれん	—	183
その他	67	69
無形固定資産合計	67	252
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,105	1,120
繰延税金資産	43	38
その他	243	310
貸倒引当金	△11	△11
投資その他の資産合計	1,381	1,458
固定資産合計	2,148	2,498
資産合計	5,642	5,711

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年12月31日)	当第3四半期会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	793	704
未払金	280	229
未払法人税等	63	113
契約負債	16	17
賞与引当金	—	17
資産除去債務	20	8
株主優待引当金	30	60
債務保証損失引当金	68	64
事業構造改善引当金	1	1
その他	443	386
流動負債合計	1,719	1,604
固定負債		
長期契約負債	14	38
資産除去債務	404	403
事業構造改善引当金	4	3
その他	347	329
固定負債合計	770	775
負債合計	2,489	2,379
純資産の部		
株主資本		
資本金	10	186
資本剰余金	3,107	3,284
利益剰余金	28	△158
自己株式	△0	△0
株主資本合計	3,146	3,313
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	0	15
評価・換算差額等合計	0	15
新株予約権	5	4
純資産合計	3,152	3,332
負債純資産合計	5,642	5,711

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
売上高	10,439	10,739
売上原価	4,268	4,260
売上総利益	6,171	6,478
販売費及び一般管理費	6,157	6,570
営業利益又は営業損失(△)	13	△91
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	0	0
協賛金収入	8	5
受取保険金	20	0
その他	20	14
営業外収益合計	50	21
営業外費用		
支払利息	2	0
支払保証料	18	16
その他	3	4
営業外費用合計	23	20
経常利益又は経常損失(△)	41	△90
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産売却損	1	0
固定資産除却損	1	0
減損損失	23	32
特別損失合計	26	32
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	15	△122
法人税、住民税及び事業税	55	59
法人税等調整額	—	5
法人税等合計	55	64
四半期純損失(△)	△40	△186

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

(事業譲受)

当社は、2024年12月25日開催の取締役会において、株式会社フードキャッチが営む飲食店事業のうち、「かいり」ブランド居酒屋事業を譲り受ける事業譲受契約の締結を決議し、同日付で事業譲受契約を締結いたしました。当契約に基づき、2025年3月1日に当該事業の事業譲受を完了いたしました。

1. 事業譲受の概要

(1) 譲受先企業の名称及び事業の内容

譲受先企業の名称 株式会社フードキャッチ

事業の内容 飲食店運営・プロデュース及びFC展開、店舗設計・施工
労働者派遣事業及び日用雑貨の販売

(2) 事業譲受を行った主な理由

当社は、これまで「いきなり！ステーキ」を中心に牛肉をメインとする飲食店の運営をしてまいりましたが、今回の譲受により、海鮮業態という新たな市場に参入することで、多角化による経営基盤の安定と収益の拡大、強化を図ってまいります。

(3) 事業譲受日

2025年3月1日

(4) 事業譲受の法的形式

現金を対価とする事業譲受

2. 四半期累計期間に係る四半期損益計算書に含まれる取得した事業の業績の期間

2025年3月1日から2025年9月30日まで

3. 譲受事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	200百万円
取得原価		200百万円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

仲介手数料等 31百万円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

197百万円

(2) 発生原因

主として今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力であります。

(3) 償却の方法及び償却期間

8年間にわたる均等償却

6. 譲受事業日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	1百万円
固定資産	0百万円
資産合計	2百万円
流動負債	－百万円
固定負債	－百万円
負債合計	－百万円

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、これによる四半期財務諸表に与える影響はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年12月26日付発行の第14回新株予約権(行使価額修正条項付)の行使に伴う新株の発行による払込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ176百万円増加しております。

この結果、当第3四半期会計期間末において資本金が186百万円、資本準備金が176百万円となっております。

(追加情報)

(資本金及び資本準備金の額の減少(減資)について)

当社は、2025年8月14日開催の取締役会において、下記のとおり2025年12月18日開催予定の臨時株主総会に「資本金及び資本準備金の額の減少(減資)の件」の議案を付議することを決議いたしました。

1. 目的

今後の資本政策の機動性を確保することを目的として、会社法第447条第1項及び会社法第448条第1項の規定に基づき、資本金及び資本準備金の額の減少を行うものであります。

なお、発行済株式総数及び純資産額に変更はありません。

2. 資本金及び資本準備金の額の減少の内容

(1) 減少する資本金及び資本準備金の額

資本金の額186,794,488円を176,794,488円減少して10,000,000円といたします。

資本準備金の額176,794,488円を全額減少して0円といたします。

※なお、当社が発行している新株予約権が2025年12月30日までに行使された場合には、新株予約権の行使に伴い株式が発行されることにより増加する資本金及び資本準備金の額と同額分を合わせて減少し、その減少額全額をその他資本剰余金に振替いたします。

(2) 方法

払戻を行わない無償減資とし、発行済株式総数の変更は行わず、減少する資本金、資本準備金の額の全額を、その他資本剰余金に振替いたします。

3. 日程

(1) 取締役会決議

2025年8月14日

(2) 債権者異議申述公告日

2025年11月12日

(3) 債権者異議申述最終期日

2025年12月12日(予定)

(4) 臨時株主総会決議日

2025年12月18日(予定)

(5) 効力発生日

2025年12月30日(予定)

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
減価償却費	133百万円	132百万円
のれん償却額	—	14

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期損益 計算書計上額 (注3)
	いきなり！ ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売 事業				
売上高 外部顧客へ の売上高	10,111	284	43	0	10,439	—	10,439
計	10,111	284	43	0	10,439	—	10,439
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	911	13	△4	△82	837	△823	13

(注) 1. 「その他」区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△823百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位：百万円)

	いきなり！ ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業	その他	計	四半期 財務諸表 計上額
減損損失	23	0	—	—	23	23

II 当第3四半期累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期損益 計算書計上額 (注3)
	いきなり！ ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売 事業				
売上高 外部顧客へ の売上高	10,253	439	38	7	10,739	—	10,739
計	10,253	439	38	7	10,739	—	10,739
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	1,058	△60	0	△76	920	△1,012	△91

(注) 1. 「その他」区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△1,012百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位：百万円)

	いきなり！ ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業	その他	計	四半期 財務諸表 計上額
減損損失	30	1	—	—	32	32

(重要な後発事象)

該当事項はありません。